

民報 おうしゅう

読者版

発行 赤旗奥州出張所
水沢大手町3丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049

国交省の発表＝奥州市「重要建物に接続する水道・下水道管路の耐震化率」ゼロ%！？ 12月議会 上下水道の国交省の緊急点検の結果と対応は？



瀬川貞清議員

奥州市議会の令和6年第4回定例会（12月議会）は11月29日に開会され、12月3日から一般質問が始まりました。日本共産党奥州市議団は、全員が質問に立ちました。先週号に引き続き、瀬川貞清議員の質問についてお知らせします。

国土交通省は、1月の能登半島地震の教訓を踏まえ上下水道システムの緊急点検を行いその結果を公表しました。奥州市は、「重要建物に接続する水道・下水道管路の耐震化率」で、その割合が「0%」とされています。

水沢浄化センター（県管理）の下水処理場があるが、ともに耐震化率は0%、合流地点までの下水道管路の耐震化率は100%である。

また『上下水道耐震化計画』については、短期間での整備は難しいことから、緊急輸送道路、施設の利用形態及び規模を考慮して優先順位を定め、上下水道一体での耐震化の推進に向けて、策定期限の令和7年1月末に向けて作業を行っている。

災害時の上下水道の機能維持は大変重要と捉えており、国の交付金等、有利な財源を活用しながら、強靱で持続可能なシステムの構築を進めたいと答えました。

瀬川貞清議員は、奥州市における状況と対策について、倉成市長に質問しました。

短期間での整備は

むずかしい

倉成淳市長は、次のように答えました。

本市の『急所施設』の耐震化率は、水道では取水施設37%、導水管36%、浄水施設37%、配水池は91%、下水道では前沢下水浄化センター（市管理）と



奥州市地球温暖化対策実行計画

改めて「早期策定を！」

瀬川貞清議員は、9月議会に引き続き、奥州市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定の進捗状況について質しました。

次期『市環境基本計画』と併せ策定する

倉成淳市長は「令和9年3月に計画期間の満了を迎える『市環境基本計画』の次期計画策定に併せ、『市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）及び区域施策編など』策定を目指している。

瀬川貞清議員は、これまで一般質問等で示された当局の答弁を示したうえで、奥州市の取り組みは、他

報発信などの地道な取り組みと環境学習などの開催といった市民の能動的な行動変容を促すアクション的な取り組みの2本立てになっていくものと考えている」と答えました。

他市町村と比べ

一周遅れでないか？

市町村と比べて一周遅れではないかと質しました。

策定前でも取り組みたい

担当者は、「奥州市が専任の職員を置いて取り組み始めたのは今年の4月からということで、その時点で先行地域からは遅れているという部分についてはその通り。庁内の各部署がそれぞれの分野で脱炭素をテーマにした政策を展開していくというのが非常に大事になってくると思う。政策の策定前であっても実際に取り組んでいきたい」と答えました。

平和を願う市民も多くいます

雪のなかの定例宣伝や、「9の日」行動に参加。明日のノーベル平和賞受賞式を前に、今こそ「核兵器なくそう」の声を広げなくてはとの思いでマイクを握りました。久しぶりの北海道は、やっぱり寒いですね。

観光客も多く、マレーシアや中国、オーストラリアなどから見えられていたそうです。英語が堪能な小室正範さんが話しかけると「イタリアは戦争しない」と、同意してくれたイタリア人の方がいたとか。

ロシアのウクライナ侵略やイスラエルによるジェノサイドなど、次々と命が奪われている世界の現実。だけど、平和を

料金引き上げはないか？

瀬川貞清議員は、財源について、国土交通省が「住民や議会の理解を得て値上げし財源を確保する」ように指導していることを取り上げ、奥州市の対応について質しました。

担当者は、いろんな手法を用いて軽減できるよう今後も務めていきたいと述べるにとどまりました。



日本共産党
元衆議院議員
はたやま和也

12月9日
Facebook より

憲法9条をもつ日本が、そして唯一の戦争被爆国の日本が、核廃絶や平和外交へと大きく踏み出したら、もつと世界は変わっていくでしょう。変える力は、みなさんにある。もちろん私にもある。

樂觀はできないけど、衆議院での改憲発議は困難になっていきます。次は憲法を活かすとき。来年の参院選が大事になります。引き続き、よろしくお願いします。

【今日の句】
雪かきが 家に帰れば 待っていた